

弓道ながの

第57号

発行：長野県弓道連盟
会長 外蘭公毅
〒399-4117
駒ヶ根市赤穂10214-4
TEL0265(83)5206
編集：県連広部
印刷：株成進社

巻頭言

「立派な弓道馬鹿」を育てる

長野県弓道連盟副会長 外山 勇一



ジュニア部担当の副会長を仰せつかっております外山勇一でございます。日頃より会員の皆さま方には、各地区の弓道場での高校生・中学生を対象とした大会・審査などにつきまして、ご理解ご支援を賜りまして心より感謝申し上げます。また生徒のみならず多くの顧問が、各地の弓道場におきまして、お仲間に入れていただき、修練に取り組んでいることにつきまして深く感謝申し上げます。

昨年度の県高体連の加盟状況調査によりますと弓道部・弓道班の所属人数は二千五百名を超え、全都道府県のなかで八番目に当たります。近年、女子は減少傾向、男子は微減傾向にあります。トータルすれば、激しく進行する少子化の時代におきまして長野県の高校生の弓道人気は衰えを知りません。今年も多くの高校弓士が誕生するはず。これはほぼ全ての学校に弓道場があり、多くの新入生が、弓道という未経験の競技に自分自身の新たな学生生活を懸けてみたいという憧れを感じるからではないかと考えます。

自分も高校の教員として、長い間、弓道班・弓道部の指導に携わってききました。生徒らはゴム弓と素引きから始め、少しばかりの的中に心を躍らせながら、いつの間にか深淵なる弓道の魅力に吸い込まれていきます。

この段階で大切なことは、基礎基本の徹底は勿論ですが、「立派な弓道馬鹿」に育てあげることだと私は考えてきました。彼らに「勉強しろ」というよりも、「高

校時代にしかできないことを精一杯やれ」と話し、それを馬鹿になってやらせる。これをやったらどんな価値があるのだろうか」「自分にとって損か得か」「この取り組みは効率的か否か」など考

えることなく、馬鹿になって何事にも取り組む気風を作る。そのなかで、彼らは成就感・達成感・挫折感・連帯感を味わい、感受性を高め、そして自己と他者の存在を愛おしく思う心をも身につけていきます。彼らの生活は基本的に「弓」と友達との「語らい」と少々「勉強」の日々だったように思います。それでいいのではないのでしょうか。それでこそ、彼らの高校生活は、生涯掛け替えのない時間になるのではないかと考えます。

このような「立派な弓道馬鹿」が卒業する際、自分は「縦横十文字の規矩を堅持し、天地左右に伸びよ」という弓道教本からの言葉を贈ってきました。「天地左右に伸びよ」は「伸び合い・詰め合い」を示し弓道では必要不可欠ですが、その「伸び」の重要性ではなく、その前に書かれている「縦横十文字の規矩」を作ることの大切さと難しさを説いてきました。

現代の日本では、知らず知らずのうちにマスコミに躍らされ、個々人の主体性も個性すらも画一的な枠組みのなかに組み入れられてしまっ

か。教育ですらそうです。周りに流されずに、自分ひとりになっても「守り通さなければいけないものは何か」「真実とは何か」を見極めようとする姿勢が真理を生むと考えます。真実を見失うことなく精神の自由を守るため、自分自身の「縦横十文字の規矩」を模索し続けることが重要であり、その思考の根底に、弓に馬鹿になって取り組んだ高校生活があれば幸いです。

最後になりますが、昨年度の高校生の活躍は、和歌山国体での少年男子の遠的五位、栃木県宇都宮市での全国高等学校弓道選抜大会における長野吉田高校弓道班男子団体の優勝など、顕著なものがありました。ジュニア部の県弓道連盟に対する貢献度は微々たるものでありますが、広い意味でジュニア部が長野県弓道連盟を下支えしているという自負が我々にはあります。今後ともご支援ご協力と温かいご指導をよろしくお願いいたします。



平成二十八年度 各事業部より

ご挨拶

総務部長 湯澤 秀雄



この度、総務部長を担当することになりました。上伊那支部の湯澤秀雄です。

昨年未、退職

し毎日が日曜日の生活をしています。自宅は桜の名所高遠城址公園の対岸高遠さくらホテルの隣にあり、勝間葉師堂の枝垂れ桜が有名なところです。妻、息子夫婦、孫二人と犬三匹で暮らしています。征矢先生が任期中中で退任され、無知、未熟を顧みずお引き受けしました。征矢先生は長い間、県弓連の役職を歴任され、職務に精通され、細やかな気遣いのできる方で残念ですが、諸般のご事情で退任されました。たいへんお疲れ様でした。一方私は、平成二十二年に県弓連に入会させていただきましたが、経験浅く、会の運営については何も知らないのが実情です。周りの皆様からご心配いただく以上に私自身が一番心配しています。外菌

会長はじめ会員の皆様のご協力をいただき、気が付かないことや配慮に欠けることが多々あると思いますが、随時ご指摘いただきながら務めていきたいと思っております。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十八年度へ

向けて

指導部長 宮坂 博之



いくぶん寒さも和らぎ、空の色にも、風の色にもどことなく春を思わせる季節となりました。

いよいよ新年度が始まります。指導部員も一年ご苦労頂いて、少しずつ長野県のこと、分かってきたように思います。会員皆様には何かとご不便、ご迷惑をお掛けしたのではと反省しております。さて、今まで何年か、指導部と言うことで会員の皆様に講習会を通して、一緒に勉強、稽古をさせて頂いて参りました。

た。広く広く、きめ細かくと皆様に行き渡るべく努力して参りました。

手を替え品を替えと言うことでは無く、細かく地道に講習会を運営して参りましたが、本年度はそれを踏まえ、すつかり見直そうと思えます。会員の皆様にとって講習会の何が必要なのか、また、それが必要で無いかを検討し、会員の声を聞き、講習会のあり方を見直そうと考えます。

また、今まで手薄だった中級者については、皆さんと相談し、その声を聞き、指導部として講習にあたりたいと思っております。どうぞご期待下さい。

平成二十七年度を振り返って、

また二十八年度へ

競技部長 中野 栄治



競技部長に就任して一年になりました。長野県各地区を飛び回り、大会運営をしてきました。各地

区の支部長さんはじめ、会員の皆様が快く大会運営にご協力していただいた事を心から感謝申し上げます。また、審判の先生方も暑かったり、寒かったりの天候のなか本当に有り難うございました。人の温かさが心にしみる一年でした。

大会運営も運営委員がだいぶ慣れてきて、事故も無くスムーズな運営ができるようになったと思っております。これからも選手の皆さんが自分の力を十分に発揮できるように努力すると共に、競技部の研修会を通して勉強していきたいと思えます。

二十八年度は北信越国体が長野県宮飯田弓道場で開催されます。五年に一度の大きな大会です。その為、県をあげての運営になりますが、大会のリハーサルを兼ねて県近隣の選手権大会及び、県遠の選手権大会を県宮飯田弓道場で開催する事にしました。

本国体の予選会ともなりますので、運営に関しては今から相当緊張していますが、気持ちを引き締めて準備に入りたいと思えます。

「矢羽の使用に関する準則」が二十七年六月三十日までを周知準備期間として、二十七年七月一日より運用開始となっております。問題が提起されてから数年経っており県弓連でも全国大会予選会、県大会等ではトレーサビリティ証明書の確認、点検が行われてくると思えます。選手として出場される方は、必ずトレーサビリティ証明書を携行して下さい。最後にありますが、会員の皆様のご協力を得て事故の無い運営を心がけていきたいと思えますのでよろしくお願致します。

平成二十八年度事業に

むけて

審査部長 押金 孝



平成二十七年
度より県弓連会
長が外菌先生に
なり、一期目一年
目の審査部事業
が、無事故で事業
計画通り全十四回の審査会が実施され
たことは、会長をはじめ関係各位や受審
者の皆様のお陰と感謝いたします。

二十七年年度昇段された皆さん、おめで
とうございました。

二十八年度より、部員を二名増員体制
とし、北信越連合審査(一回)を加え十五
回の審査会を実施いたします。

今年の年頭の目標に、「審査合格、昇
段」などをあげた方も多しと思えます。
自分も、そのひとりですが、まだまだ未熟
ゆえ結果を出せません。

しかし、ハードルは高いほどやりがい
があると思っております。

近年受審者数が減少傾向です。

これは、少子化などが大きな原因とは
思いますが、もつと受審して頂けるよう審
査部一同サポートしていきたいと思ってい
ます。

昇段だけが、弓道の目的ではありません
ですが、目標のひとつとして多くの方にトラ

イして頂きたいと思えます。

ノートライノエラーから進歩も成長
も生まれません。

二十八年度も、厳正で事故のない審査
会開催をし、一人でも多くの受審者の皆
様が日々の修練の結果を遺憾なく発揮さ
れ合格の喜びを手にされます様審査部一
同運営していきます。

二十八年度も、審査に関わる多くの関
係者の皆様にご協力をいただきます様お
願い致します。

昨年の反省と

今年の目標

強化部長 永藤 聡



強化部長を拝
命して一年が過
ぎました。多くの
失敗を重ねなが
らも完了するこ
とが出来ました。

県弓連会員の皆様に感謝いたします。あ
りがとうございました。

昨年、の国体成績は本紙でも特集を組
んでいた、ご存知のことと思えます。
しかし、悔しい思いもたくさんあった二年
でした。昨年悔しかった事をいくつか挙げ
させていただきますと、①「少年女子が
北信越国体で敗退」真に口惜しく悔しい
思いをしました。何日も夜中に目が覚め

ました。近的あと1本、遠的あと1点で
した。②「少年男子が本国体で24射20中
で予選落ち」20中での予選落ちは過去十
年間で1チームもありません。予選20中
は成年男子と同中でした。③「成年男子
が遠的予選二位で通過し、一回戦で1点差
で敗北」予選で力を出しすぎたのでしょ
うか。いや、千葉国体では予選最高点でそ
のまま優勝しました。④「成年女子が、近
的九位で予選落ち」一昨年の長崎国体も
九位でした。二年連続九位は恨めしくも
あります。

昨年の悔しい思いと良かったことを反
省し、その原因を究明し、解決策を講じ
て本年度の国体に挑みたいと思えます。
県弓連会員の皆様のご協力ご支援を本
年もよろしくお願い申し上げます。

県弓道連盟の目標は、全種別全種目
で優勝することだと思えます。全八種目
で優勝しますと、天皇杯と皇后杯の一位
をあわせて、県弓連からの報奨金は百万
円になります。すみません。報奨金の
話はともかくも、私が考える現実的な最
低の達成目標は、全種別で本国体に出場
することです。全四種別での出場は、九年
前の秋田国体以降ありません。ぜひ実現
したい目標です。それを実現してから、そ
の上を考えます。今は三十近くある強化
部の事業を、手を抜かず一生懸命努め
させていただけます。

ジュニア部の活動について

ジュニア部長 神津 明男



平成二十七年
度のジュニア部
の事業活動は会
員の皆さまの支
援を賜り、無事
終了させていただきました。

昨年、心より御礼申し上げます。
昨年は十二月の全国高校選抜弓道大
会で長野吉田高校が男子団体優勝とい
う快挙をなしとげました。そして県内高
校生は大きな希望と自信を与えてもら
いました。選手監督をはじめ関係者
におおいに讃え、感謝したいと思います。

ジュニア部では毎年六月末に全国中学
生弓道大会長野県予選会を塩尻市弓道
場で開催しております。県大会ではあり
ますが出場者は中学生ですので、ほとん
どが初心者です。技術の習熟度にこだわ
らず多くの中学生が参加して、緊張感や
達成感を味わいつつ、大会を楽しんでほし
いと思っております。

高校生においては、各校のクラブ活動で
指導者の先生方たいへんお世話になって
おります。校務にお忙しい中ではありま
すが、ひきつづき生徒たちの導きをよろし
くお願いいたします。

ジュニア部では中高校生用に「弓道の手

引き」をつくり、昨年度はほぼ全実施者に配布することができました。今年度も新たに弓道を始める高校一年生、中学生を対象として配布の予定です。皆様十分に活用いただき、お気づきの点をお知らせいただければと思います。

中学生、高校生はやる気は十分ありますが、上達は少しずつで簡単ではありません。指導者の皆様には気長にご指導をいただき、将来の名弓士達の礎を築いていただきます。ジュニア部では本年度も県内ジュニア層を援助する活動を進めたいと思っておりますので、皆様のご指導、ご支援をよろしくお願いいたします。

広報の一年

広報部長 荒川 保



広報部を引き受けて早くも一年がたちます。その間に発行した広報「弓道ながの」は四回、年四回発行

とすると三か月ごととなります。初めは結構余裕があるのかと思っておりましたが、これが大変忙しいと思いはじめられました。原稿の依頼から締め切りまでに原稿を頂き、割り付け、ゲラ刷り、校正、印刷、発送。もちろん広報部員や印刷会社に協力

して頂き今日に至っております。印刷に入るころには次号の大枠の構成、原稿の依頼となります。会員の皆様には大変ご協力を頂き厚くお礼申し上げます。本年度も四回の発行を予定しております。今を記録に残すことも大事な広報の仕事だと思っておりますので、どうぞ身近な話題などありましたらぜひ寄稿をお待ちしております。

ホームページは担当者に任せて管理をしております。出来るだけ多くの情報を迅速に掲載できるように努力はしておりますが、仕事と並行しており集められる情報は限られております。どうぞ、これからも大会の開催要領、結果、初心者教室各種団体からの表彰など多くの情報をお知らせ頂きます様お願い致します。特にホームページは個人情報に注意をしながらの運用となりますので皆様のご協力をお願い致します。

月刊弓道の「ちれん発」にも原稿を寄せております。出来るだけ身近な話題を載せるよう心掛けてはおりますが、こちら情報等がありましたら是非お知らせ下さい。

「弓道ながの」にしろ「ホームページ」にしろ、読んで頂く、見て頂くが使命です。これからも皆様のご意見やご要望をお聞きしながらより良く、そして面白い物にしていきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。

私と弓道

佐久支部 鎌土五段 掛川 渡

私が弓道を始めたのは、東京農業大学に入学(昭和四十八年)してからのことである。寮生活が始まってすぐ寮長になつてしまった。当然部活はお荷物的な状況が生じ、やめようかと迷っていた所、先輩から「器用な人は早く上手くなるけれど、不器用でもコツコツ努力した人の方が後で大成するので頑張りなさい」の一言で弓を続けられました。昭和五十八年、念願の長野県の教員に採用、下伊那農業高校に赴任。昭和六十二年、北佐久農業高校への転勤を機に、佐久弓道会入会。生徒に弓を教え勝たせる事に生き甲斐を感じ満足していた自分がありました。生徒に教えるだけでなく、自分も弓を引かなくてはと、先生方に教えられ審査を受けるようになりました。

今まで佐久弓道会に所属しながら、支部活動に貢献できていなかったのが本年度より弓道教室の指導を担当させて頂いています。佐久弓道会は、山浦博先生のご指導の下、篠澤英次支部長をはじめ若い会員が多く育っております。特に私の教え子が続けてくられていて会を盛り上げていますので



とても有り難く思っています。

私は射即人生を旨に、朝一番校舎が開くと一階廊下のモップ掛けを日課とし、生徒の為に自分の為にと心得行動しています。いざ弓となると多忙を理由に稽古をなござりにしている不甲斐ない自分がいて不徳の致す所です。この三月担任も終えやっとな年季が明けます。これまで弓道を通して多くの恩師や仲間にも恵まれた事に感謝し、これからも社会に貢献し還元できるように真正面から取り組まなければならないと思っています。稽古や大会などで皆様方と交流し、人格形成や精神の向上を目指し努力してまいりますので、宜しくお願い致します。



第三十四回全国高等学校 弓道選抜大会優勝

長野吉田高校弓道班顧問 市村 佳一

インターハイのあと、新チームは県大会・北信越大会で勝って、ついに全国大会で優勝しました。各県代表の51チームが予選で16チームに絞られ、そこから決勝トーナメント。一つ一つ勝ち上がって、気がついたら全国の頂点に立っていました。まるで夢を見ているような気分でした。

チームのメンバーは、(大前)村本直輝、(中)丸山稜斗(落ち)依田尚大、(控え)土屋息吹の四人。このうち三人はインターハイ経験者で、大舞台での経験とインターハイで負けた悔しさを持っています。三人はそれぞれライバルで意地があり、共通するのはなによりも弓が大好きだということです。日々の練習量も多く、この三人の性格がうまく噛み合って、試合を重ねることに強くなりました。そして、動じない強さ、崩れない強さをチームに作り出していきました。

全国弓道選抜大会での試合は次の様な展開でした。

○予選は12射9中、それほど調子がいいわけではなかった。10位タイでかろうじて通過。

○決勝一回戦(北海道…札幌厚別戦)



写真提供：スポーツ写真通信社

相手は予選をトップタイ(11中)で通過したチーム。一本目は互角、二本目以降相手にミスが出る。長野吉田はミスなくまとめて12中・7中で勝ち。

○準々決勝(鳥取…米子工業戦)

相手は一回戦を11中で勝ち上がってきた強豪、最も緊張した一戦。一本リードのまま、依田の四本目になる。落とすと同中競射であったが、依田が的中し10中・9中でかろうじて勝ち。

○準決勝(栃木…作新学院戦)

前半は互角(ともに5中)。後半になる

と、相手にミスが出て的中が伸びない。長野吉田は三人とも束中し11中・6中で勝ち。

○決勝(和歌山…日高戦)

前半一本リード。三本目終了で同中となったが、相手は四本目をすべて外す。長野吉田は三人とも的中し10中・7中で優勝が決まる。

全国の強豪たちと互角以上に戦って、今回の勝利を得たこの選手たちを讃えたい。同時に、この大会を通して、「あたりはずれ、勝ち負け」はあるけれど、各県代表の選手たち、対戦したチームの選手たちが一本一本でいねいに、全神経を集中させて矢を射る姿はとても感動的で、いい勉強になりました。弓道班はさらに次の目標に向かって練習に励みたいと思います。

最後になりましたが、この大会に臨むにあたって、物心両面からご支援を頂いた関係各位に心より感謝申し上げます。

選手のコメント

村本直輝

夏のインターハイに続けて出場した全国選抜。夏の屈辱を晴らすことができました。チームで助け合ったからこそ掴み取れた優勝だと思います。高校弓道に「長野吉田」という文字を刻むことができ、良かったです。これからも日々稽古を欠かさずしていきたいです。

丸山稜斗

直前の数日間はいつも通りの調子が出ず、良い状態で大会に臨むことができませんでした。落ち着いてできました。それはチームの力です。「カバールしあえる」というこのチームの良い点が存分に発揮できて本当に良かったです。

依田尚大

今回の優勝は、今まで一人一人が努力してきた結果だと思える。個人戦は負けてしまったが、団体で勝って嬉しかった。弓道は的中することが楽しい。一年の頃、先輩の射型を動画に撮って、自分とどこが違うかを考えて真似をした。途中からどんどん中るようになった。今の目標は、きれいな射型強い矢勢で中て続けること。



▲県庁表敬訪問



今感じること

上那伊支部 教士六段 中田 真也



弓道を始めた当初は、きつと上手くなるはずだという根拠の無い自信だけがあつた。今思うと、とんでもない初心者だったようだ。冬に道場のガラスは割ってしまったし、新品の矢は一年持たずに羽がぼろぼろになってしまふ、弓は壊してしまうという状態だった。先生方は本当に「もの」になるのだろうかと思っていたそうである。

それでも毎日稽古を続けていると中るようになってきた。こうなるとおもしろくてたまらない。さらに稽古に熱が入ってきた。大雪が降ったときである。今日はどうしようか、炬燵でぬくぬくしようかとも思ったが、それでもと気を取り直して道場へ行き雪かきをしていた。誰も来ないだろうと思っ

ていると二、三人やってくるではないか。熱心な人は私だけでは無かったのだ。迷っていた自分が恥ずかしくなつた。そのような仲間と弓を引くことでお互いに成長できたと思う。

的に中てることに夢中であつた頃、ある二人の先生に出会つた。一人目はA先生である。昔剣道をやっていたさうで腕も太く体格も良い。そのようなA先生と一緒に弓を引く機会ができた。弓談義をしながら楽しく稽古をしていたのだが、なぜかA先生は巻藁ばかりやっている。「的が空いているのになぜ巻藁のですか？」と質問したところ「矢を取りに行かなくても良いし巻藁の方がたくさん引く事ができるからな。」と言つてにこにこしている。そんなものかなとそのときは思つた。二人目は郡例会と一緒に弓を引いていたB先生である。ある時を境にしてB先生の中りがパツタリ止まつてしまつたのだ。いったい何があつたのだろうか？何を考えていらつしやるのだろうか？と思ひ見ていると、会はずっかりある。外見上は特に変なところはない。ただ黙々と引いている姿が印象的であつた。そしてついに「そのとき」が来たのだ。放つ矢はすべての吸い込まれていく。中てる弓から中る弓への転換点を見た気がした。その後お二方の先生はあつという間に昇段された。



審査や大会・講習会などでなかなか思つたように引けなかつた時に、いつもこの二人の先生の姿が頭をよぎるのである。B先生には当時のことを直接聞いたことは無いし、A先生の笑顔の奥の真実もよくわからない。私が理解した事が正しいかどうかも定かではない。しかし、あのときの体験が私の弓道観を根底から覆したことは事実である。誠実に弓を引く姿は本人が意識するかどうかにかかわらず、伝わってくるものであると思う。

今日まで多くの先生方や弓友たちに支えられたおかげで、現在も弓道を続けていることが出来る。そのことに心より感謝しながらさらに精進していきたい。

弓道合宿予約随時受付中！

野辺山洗心弓道場

- 近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)
- 12人立2ヶ所
- 遠的道場 1ヶ所

帝産ロツヂ

〒384-1305
長野県南佐久郡南牧村野辺山1003
HP : <http://www.teisanlodge.com/>
ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

第四回全国弓道指導者研修会へ参加して

飯伊支部 式段 松村 和重

平成二十八年二月十九日、二十日、二十一日に第四回全国弓道指導者研修会が千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで開催されました。県内からは高畑正之先生(長野西高校)、内藤信一先生(長野南高校)、私(下伊那農業高校)の三名で参加させていただきました。主任講師に久保田清先生(範士八段)、講師に桑田秀子先生(教士八段) 栃木県弓道連盟会長)、松本代志博先生(教士七段 福島県弓道連盟副会長)をはじめ総勢十名の講師陣でした。講師の先生方の中には中高での教員経験があり、児童や生徒への指導経験も豊富です。また、特別講師として影山一先生(全日本弓道連盟理事、全国高等学校体育連盟弓道専門部顧問)より「部活動の現状と課題―主に高校弓道を中心として―」という講義題目で一時間ほど特別講演がありました。特別講演では、

- 一、試合に勝たせてあげること、生徒に自信が付き、成長していく。勝つても負けても生徒は成長していく。勝つこと、知る世界もある。
- 二、生徒は授業をしっかり受ける、顧問は校務をしっかりやり遂げること



で周囲からの応援をもらえる。(好きな弓道だけをやっても周りからの理解は得られない)

三、体罰を防ぐには余裕が必要。焦りがない。体罰を生む温床になる。

等、述べられました。

その後、本研修を主催している全日本弓道連盟と日本武道館より、各団体が取り組んでいる事業や課題、今後の見通し等についての説明がありました。

一日目の夜は、各自が事前に与えられたテーマについて集団討論をしました。共通課題として「中学校保健体育における弓道授業採択にむけての方策について」、別課題として「弓道の指導者としてど

のような弓道を目指すべきか」でした。中高の弓道指導者、特別支援学校の保健体育教員、外部指導者など多様なバックグラウンドを持つ方々と議論を深めることが出来ました。共通課題では「指導者の育成を早急に行うべき」、別課題では「的中のみに執心するのではなく正しい弓を指導するべき」との結論に至りました。

別課題の結論は、前号の弓道ながので県弓連会長の外園先生が、「中りさえすればどんな射形でも」というのは長野県は採らないと、おっしゃっていたことに合致しています。的中、体配、礼儀等が十分に指導できるわけではありませんが、肝に染みて指導していきたいと思えます。

二日目はまず、松本先生より画像を用いて射法八節の解説をして頂きました。ポイントとなる箇所については参加者からの熱心な質問が飛び交っていました。その後、「学校授業対応」、「学校部活動」、「初心者(未経験者)」の三つに分かれ研修を頂きました。私は「学校部活動」を選択し、高橋文彦先生(教士七段 福島県弓道連盟理事)の指導を受けました。まず、一手行射をして、各参加者へ高橋先生から講評を頂きました。その後、相互研修を行いました。的前指導の方法だけではなく、巻藁指導についても要点を絞りアドバイスを頂きました。

一、まずは褒める。そして、「今の射で気になっているところはどこですか。」と

発問する。こうすればもっと良くなる、的中率が伸びると具体的に指導をする。(押しつけ指導はダメ)

二、射法八節は「連の流れであるので、上手くできない場合(例・左右均等な引き分けが出来ない)はその前の段階に戻って指導していく。

等、述べられました。高橋先生の弓道に関する深い知識、御自身の実践による経験談は飽きることがありませんでした。普段の指導を改めて見つめ直すことが出来ました。

三日目は体配、執弓の姿勢、基本体について指導をして頂きました。

一、体配の基本は縦線を意識する。背骨、うなじを伸ばす。

二、基本動作については息合、目づかいは大変重要。習得、会得、体得をして欲しい。

その後、高橋良子教士七段(石手県弓道連盟理事)、増渕敦人教士七段(栃木県高等学校体育連盟理事長)、前述の高橋教士七段による「的射礼を特別演武として拝見しました。息のあった所作、微動だにしない深い会、三人の先生方による調和の美により会場全体が水を打ったように静まりかえっていました。

三日間の研修の成果を生徒に伝え、「弓道を通じた人格形成」を目指して今後も指導に力を入れていきたいと思えます。

長鉄支部の歩んだ道

(廃部にあたって)

長鉄支部長 錬士六段 辰野 正雄

長鉄支部は平成二十八年三月末を

もって幕を下ろすこととなりました。長年当支部運営の課題となっておりました弓道部員が、二十七名と年々減少する中で、先輩諸先生方の高齢化も進み八十五歳以上が八名となり、日常活動している会員は僅か四、五名となつてしまいました。

振り返りますと、昭和

四十三年三月に当時の県弓道連盟会長の林亮天先生ほか関係者の特段のご配慮を頂き、長野支部から独立して特別に職域の長野鉄道支部が発足しました。

そんな頃、職場対抗弓道大会が毎年開催されており、部員数も増えて益々盛況となりました。

昭和六十二年四月に組織がJRに変わると、敷地内の当支部専用道場が解体され、以後長鉄支部は拠点を長野運動公園弓道場に移し

て活動してきました。

その間に範士三名・教士八名・錬士七名の称号受有者ほか有段者を数多く輩出し、全日本弓道大会、全日本弓道選手権大会、勤労者選手権大会や国体等、県下はもとより国内における各種の大会において数多く出場し活躍して参りました。



▲昭和62年1月 東京武道館にて「鏡開き式」での表彰式の後

更に、昭和五十三年のやまびこ国体では、競技役員や委員としても大勢が参加協力することができました。

その甲斐あって、昭和五十五年に鉄道総裁より「加賀山賞(国鉄の文化賞)」を受賞、昭和六十二年一月十五日には日本武道協議会から、昭和六十一年度武道優良団体として表彰され、東京武道館での表彰式には十一名で参加、当時の県弓道連盟会長の演與祐先生にもご一緒頂きました。

また、昭和四十八年からは、支部主催の近県弓道大会を開催し、当初は京都大会の前哨戦として遠的・近的の一般大会でしたが、途中から高校総体の前哨戦として、高校大会に衣替えしながら平成二十六年の第四十一回大会まで継続し、参加人員が五百名を越すほどの盛況となりました。しかしながら、役員不足で実行が困難となり、多くの弓士から惜しまれつつ幕を閉じました。

特筆すべきは、平成五年度から大久保秀雄範士、平成九年度から宮澤廣範士が、それぞれ二期ずつ延べ八年間に渡り、県弓道連盟会長を歴任されて、支部総動員で活動できたことは、当支部として大変な名誉であります。

そして、今日まで県弓道連盟会長ほか役員の皆様及び、各地区支部長



▲昭和62年1月 武道優良団体表彰受賞祝賀会

はじめ大勢の会員様には、長年に渡りご指導ご鞭撻を頂きながらお付き合い頂き誠に有難うございました。

平成二十八年度からも今までどおり弓道を継続する当支部員は、最寄りの貴支部への入会を希望しておりますので、その折りには温かく迎えて頂きたいと思えます。宜しくお願い致します。

弓仲間紹介

伊那市体協弓道部 酒井 紳一

昭和二十九年に伊那市市制施行を記念して行われた祝賀弓道大会を機に、それまで上伊那支部のなかで運営されてきた弓道部を、伊那市体育協会弓道部として発足したのが、当弓道部の始まりだそうです。すでに六十年以上の歴史を持ち、人間でいえば還暦を過ぎたことになりす。一昨年には六十周年を記念して、これまでの弓道部のあゆみをまとめた記念誌を編纂発行し、記念射会も行いました。



当弓道部がどんな会かといえば：一番大きな特徴はなんといっても、範士八段山川茂樹先生がおられるということではないかと思えます。日々の稽古や定期的に行っている射礼研修会などで、直接先生からご指

導をいただけることは、本当に恵まれた環境にあることを実感しています。なかなか思うように引けなかつたり、迷っていたりするようになるときでも、先生からのご助言やわずかに手を添えていただくことで、自分でも驚くような射が出る場合があります。腕が上がったかのような錯覚を覚えますが、なかなか自分一人では実践できず、「審査についていくわけにはいかないぞ」と言われてしまいますが、それでも、審査や大会に行ったときなどには、教えていただいたことを思い出し、とにかく今はここ！と、ポイントを絞って臨めることは、大きな安心につながっています。

また、そんな先生の指導を受けた諸先生・先輩方の中には、全国規模の大会でも優勝など好成績を残してこられた方も多く、そんな方々と一緒に弓を引けることも当弓道部の大きな魅力であると思えます。

大会結果

第10回野辺山洗心弓道大会

○平成27年11月28日(土)、29日(日)

帝産ロッジ弓道場

参加人数・97名

- 1位 藤森千友貴(丸子)
- 2位 清水 北登(佐久)
- 3位 亀岡 英司(南佐久)
- 4位 柴 翔太(諏訪)
- 5位 小田切祐典(小諸)

第5回北信越高等学校弓道新人大会

○平成27年12月12日(土)

松本市弓道場

参加人数・182名

- 個人の部
 - ▲ 女子
 - 1位 利根川聖花(屋代)
- 団体の部
 - ▲ 男子
 - 1位 長野吉田(村本直輝、丸山稜斗、依田尚大、土屋息吹)
 - ▲ 女子
 - 1位 長野吉田(廣田彩乃、小山彩夏、丸山莉沙、松下遙奈)
 - 2位 松商学園(中島優衣、山田佳乃、稲村夢香、相馬汐里)

第34回全国高等学校弓道選抜大会

○平成27年12月24日(木)～26日(土)

ブレックスアリーナ宇都宮(宇都宮市体育館)

- 個人の部
 - ▲ 男子
 - 1位 長野吉田高校(村本直輝、丸山稜斗、依田尚大)
- 団体の部
 - ▲ 男子
 - 技能優秀賞 塩釜圭礎(長野日大)

この大会について、詳しくは5pの記事をご覧ください。



第71回国民体育大会弓道競技
長野県少年男女一次選考会

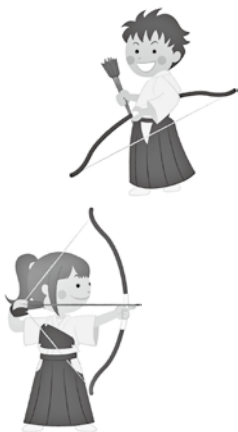
○平成28年1月30日、31日、2月6日、7日
場所…上田市弓道場、長野運動公園弓道場、
駒ヶ根市弓道場、松本市弓道場

▲一次予選通過者 少年男子

- 吉池 大河(上田)
- 小林 京(上田千曲)
- 小山 寛至(佐久平総合技術)
- 熊谷 極門(野沢南)
- 山田 尚毅(野沢南)
- 名古 勇也(中野西)
- 飯島 大貴(長野工業)
- 岡澤 拓矢(長野西)
- 高池 諒真(長野西)
- 小林 朋史(長野日大)
- 塩釜 圭礎(長野日大)
- 湯本 凌央(長野日大)
- 丸山 稜斗(長野吉田)
- 依田 尚大(長野吉田)
- 中村 幹人(屋代)
- 山口 晋平(赤穂)
- 荒井 勇志(飯田風越)
- 川島 陸人(飯田風越)
- 堀内 一真(飯田風越)
- 佐藤 夏樹(伊那弥生ヶ丘)
- 伊藤 雅之(駒ヶ根工業)
- 浦野 陸伺(駒ヶ根工業)
- 金子 景太(諏訪二葉)
- 佐伯 凌(松商学園)
- 田中 俊介(松商学園)
- 田中 一輝(松本蟻ヶ崎)
- 古畑 樹(松本蟻ヶ崎)

▲一次予選通過者 少年女子

- 水澤 舞(小諸商業)
- 井出 彩音(野沢北)
- 岩波 彩乃(野沢北)
- 菊原希美佳(野沢南)
- 小原 涼(須坂)
- 野中 咲良(須坂)
- 勝山 苑美(須坂東)
- 吉野 有咲(須坂東)
- 五十嵐ももな(長野日大)
- 廣田 彩乃(長野吉田)
- 宮寄はるか(文化学園長野)
- 利根川聖花(屋代)
- 唐澤 莉佳(岡谷東)
- 高坂 彩水(岡谷東)
- 馬場 絢音(駒ヶ根工業)
- 中村 莉那(下伊那農業)
- 原 風香(下伊那農業)
- 高山 愛加(諏訪実業)
- 小原 弓佳(諏訪二葉)
- 稲村 夢香(松商学園)
- 相馬 汐里(松商学園)
- 山田 佳乃(松商学園)
- 武居 奈奈(松本蟻ヶ崎)
- 三代澤香葉(松本美須ヶヶ丘)
- 岡田 彩夏(松本美須ヶヶ丘)



昇段昇格者

◆「東京」特別臨時中央審査

▽鎌士の部平成27年12月19日

- 市川 隆光(諏訪支部)
- 常盤 三男(飯伊支部)
- 高橋 正弘(上小支部)
- 谷 京子(長野支部)
- 中村 健二(飯伊支部)

◆「名古屋」定期中央審査

▽教士の部平成28年2月6日

中田 真也(上伊那支部)

▽六段の部平成28年2月7日

- 山浦 明子(佐久支部)
- 志村 仁(諏訪支部)
- 樋口 浩昭(松本支部)

お詫び

第56号に誤記がありましたので訂正しますとともにお詫び申し上げます。

5p 平成27年度教士研修会

上段16行目

誤「中野英治」↓正「中野栄治」

弓道

大相撲初場所は、満員御礼の連続記録を更新し幕を閉じた。特に本県木曾出身の「御嶽海」の活躍もあり、私としては面白く見る事ができた。

大相撲の最高位は横綱であり、秀でた力士に与えられる称号である。判断の基準となるのは、「力・技・誠・品・体・気・度(人間性を推し量る、度量)」とされている。昔、雷電という名力士はこのうち「誠・品・度」にかけていたといわれ、抜群の成績を取めながら横綱にはなれなかった。

弓道と相撲とは通じるものがあると感じており、私はこれらの観点から両方を見ている。

例えば相撲では、立ち合いまでの数分で相手との間合いを計っているものと思われる。弓道でも意味合いは違っても間は大切であり、間が長すぎると間が抜けていると言われることもあり、どちらにしても、とても間を大切に考えられている。

…等々、いろいろな共通点を感じながら国技館を後にした。

上小支部 鷹野 良信